

令和7年度東部地区社会教育関係委員・職員研修事業概要

教育事務所名 東部教育事務所  
実施場所 久喜市菖蒲文化会館アミーゴ

実施日	令和8年1月19日（月）	
対象者 及び 人数等	社会教育委員	44人
	生涯学習審議会等委員	6人
	社会教育指導員	1人
	社会教育担当職員	30人
	社会教育施設職員	0人
	公民館運営審議会委員	3人
	その他	3人
	計 87人	
時間数	13:40～16:05（2時間25分）	
講師	講師 1人・合計 1人	
	講師 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官 志々田 まなみ 様	
研修内容	<p>1 開会行事</p> <p>2 実践発表</p> <p>（1）実践発表1 久喜市</p> <p>①発表題 今日からあしたへつなぐ 久喜市社会教育委員協議会 「諮問に答申・提言してますか」</p> <p>②発表者 久喜市社会教育委員長 折原 憲司 久喜市社会教育委員副委員長 佐伯 慶子 久喜市社会教育委員 桐原 宏</p> <p>（2）実践発表2 白岡市</p> <p>①発表題 トークフォークダンスの取組 ～次代を担う人と豊かな文化を育む 学び楽しむまちづくりの実現に向けて～</p> <p>②発表者 白岡市社会教育委員 野口 英夫 白岡市教育委員会生涯学習課 小林 聡一</p> <p>3 講演 演題『人々をつなげる社会教育の役割』 国立教育政策研究所 総括研究官 志々田 まなみ 氏</p> <p>4 閉会行事</p>	
評価	<p>・久喜市の実践発表は、若者参画の停滞という課題を的確に捉え、調査に基づく提言から具体的実践へとつなげており、社会教育委員の主体性と行政への働きかけが明確に示されている点が素晴らしかった。</p> <p>・白岡市の実践発表は、家庭・地域・学校・行政が役割を分担し、対話の仕組みを丁寧に構築した「トークフォークダンス」の実践が素晴らしく、地域ぐるみの人材育成につながる実践として、他の自治体の参考となるものだった。</p>	

## 令和7年度 東部地区社会教育関係委員・職員研修会実施要項

### 1 趣 旨

東部教育事務所管内各市町の社会教育委員及び社会教育関係職員等を対象とした研修会を実施し、地域の実情に応じた実践成果の発表や提言、提案等を通じて、今後の活動のあり方を具体的に発信できる人材の育成を図る。

### 2 主 催

- ・埼玉県教育委員会 ・埼玉县市町村社会教育委員連絡協議会
- ・北埼玉地区社会教育委員協議会 ・埼玉葛郡社会教育振興会

3 日 時 令和8年1月19日(月) 13時10分～16時30分

4 会 場 久喜市・菖蒲文化会館【アミーゴ】

### 5 参加者

- ・各市町社会教育委員 ・各市町社会教育指導員 ・各市町社会教育担当職員
- ・各市町社会教育施設職員
- ・各市町公民館運営審議会委員 等

### 6 研修テーマ

「人々をつなげる社会教育の役割」

7 内 容 開会行事、実践発表等

### 8 実践発表市町(発表ローテーション) 令和7年度：久喜市、白岡市

※輪番順(北埼玉)：行田市→加須市→羽生市

※輪番順(埼玉葛郡)：春日部市→吉川市→三郷市→久喜市→白岡市→八潮市→幸手市→越谷市→杉戸町→蓮田市→松伏町

年度	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09
北埼玉地区	—	羽生市	—	行田市	—	加須市	—
埼玉葛郡市	杉戸町 蓮田市	松伏町	春日部市 吉川市	三郷市	久喜市 白岡市	八潮市	越谷市 幸手市

### 9 運営役員会

(1) 日 時 令和7年11月12日(水) 14時00分～

(2) 会 場 東部教育事務所 301会議室

(3) 参加者

- ①北埼玉地区社会教育委員協議会…会長、副会長、幹事、発表者
- ②埼玉葛郡社会教育振興会…会長、副会長、幹事、発表者

# 令和7年度東部地区社会教育関係委員・職員研修会 次 第

令和8年1月19日(月)  
久喜市菖蒲文化会館アミーゴ

## 1 開会行事(13時40分～13時55分)

- (1) 開会の言葉  
(2) 主催者挨拶 埼玉県教育局東部教育事務所長 越 晃宏  
北埼玉地区社会教育委員協議会会長 中根 将行  
(3) 来賓挨拶 久喜市教育委員会教育長 柿沼 光夫 様  
(4) 来賓・主催者紹介

## 2 実践発表(14時00分～14時45分)

- (1) 実践発表1 久喜市(14時00分～14時20分)  
①発表題 今日からあしたへつなぐ 久喜市社会教育委員協議会  
「諮問に答申・提言してますか」  
②発表者 久喜市社会教育委員長 折原 憲司 様  
久喜市社会教育委員副委員長 佐伯 慶子 様  
久喜市社会教育委員 桐原 宏 様
- (2) 実践発表2 白岡市(14時25分～14時45分)  
①発表題 トークフォークダンスの取組  
～次代を担う人と豊かな文化を育む  
学び楽しむまちづくりの実現に向けて～  
②発表者 白岡市社会教育委員 野口 英夫 様  
白岡市教育委員会生涯学習課 小林 聡一 様

～休 憩～

## 3 講演(15時00分～16時00分)

- (1) 講 師 国立教育政策研究所 総括研究官 志々田 まなみ 様  
(2) 演 題 『人々をつなげる社会教育の役割』

## 4 閉会行事(16時00分～16時05分)

- (1) 閉会の言葉

# 研修会の要約

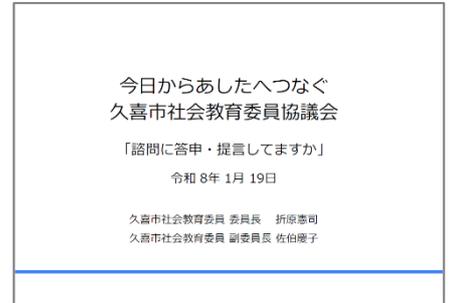
## 1 実践発表

### 【実践発表1 久喜市】

①発表題 今日から明日へつなぐ 久喜市社会教育委員協議会  
「諮問に答申・提言してますか」

②発表者 久喜市社会教育委員長 折原 憲司 様  
久喜市社会教育委員副委員長 佐伯 慶子 様  
久喜市社会教育委員 桐原 宏 様

- ・久喜市社会教育委員協議会は、自主組織として委員自らが課題を設定し、調査・研究・実践を通して市政に提言する役割を担っている。
- ・若者の地域参画が進まない要因として「情報不達」に着目し、高校生や成人式実行委員への調査を行うなど、当事者の声に基づく課題把握を行っている。
- ・調査結果を踏まえ、情報発信体制の強化や学校・地域との連携充実について教育長へ提言し、市政への反映を図っている。
- ・提言にとどまらず、「まなびすとフォーラム」や放課後子ども教室への中高生ボランティア参画など、具体的な実践につなげている点が特徴である。
- ・今後は SNS 活用や若者参画型フォーラムの企画など、若者を主体に据えた段階的な取組を進め、「若者にとって魅力ある久喜市」の実現を目指している。



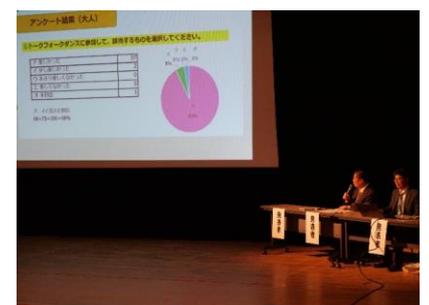
### 【実践発表2 三郷市】

①発表題 トークフォークダンスの取組

～次代を担う人と豊かな文化を育む 学び楽しむまちづくりの実現に向けて～

②発表者 白岡市社会教育委員 野口 英夫 様  
白岡市教育委員会生涯学習課 小林 聡一 様

- ・白岡市では、「町ぐるみん白岡」と市が連携し、家庭・地域・学校・行政が協働して「地域の子どもの地域で育てる」体制づくりを進めている。
- ・社会教育委員の提言を基盤に、子育て支援や体験活動など4つの実践提案を柱とした継続的な地域活動を展開している。
- ・その一つとして実施したトークフォークダンスは、中学生と地域の大人が対話を通して相互理解を深めることを目的とした取組である。
- ・役割分担や事前調整を丁寧に行い、安心して話せる場を保障したことで、生徒・大人双方から高い満足度と学びの成果が得られている。
- ・アンケート結果からも、地域への関心や参加意欲の向上が確認され、家庭・地域の教育力を高める有効な実践である。



## 2

## 講演

①講師 国立教育政策研究所総括研究官 志々田 まなみ 様

②演題 『人々をつなげる社会教育の役割』

- ・久喜市の実践は、社会教育委員が自主的に課題を捉え、調査・視察・アンケートを通して根拠ある提言と実践につなげていることが素晴らしい。
- ・若者参画の促進には、大人の意識改革だけでなく、小中高生の段階から地域との関わりの種をまいていく視点が必要である。
- ・特に中学生期は部活動や塾等により地域活動から離れやすく、学校との連携を強めた仕組みづくりを模索していく必要がある。
- ・白岡市のトークフォークダンスは、家庭・地域・学校・行政が連携し、対話を通して相互理解を深める仕組みとして取り組みやすく、雑談力や関係性を育てる実践としてとても有効である。
- ・対象学年は中学3年生に限らず、より早い段階から実施することで、関係性づくりや効果の広がりが期待できる。
- ・人が幸福を感じる要素として「PERMAの法則」がある。ウェルビーイングの向上を考える時に意識してみるとよい。
- ・社会教育とは単なる「学校・家庭以外の教育」ではなく、人が集団の一員として生きていくための力や、人と人とのつながりを育む営みである。
- ・活動を進める際は、活動のねらいを誰にでも分かる言葉で伝えること、「やらねばならないこと」を「やりたいこと」に「映えさせる」こと、小さな実践から始めることが重要である。



## 3

## アンケートから

【参会者のアンケート結果】…回答率75%（回答数65票／参加者87名）

①実践発表について

回答	人数
参考になった	39
概ね参考になった	24
あまり参考にならない	2
参考にならない	0

- ・どちらの発表も地域の中高校生と大人との交流を深め、将来のまちづくりを担う若者の育成を目指しており、参考になった。
- ・常に問題意識をもって、まずは楽しみを見つけながら活動していくことの大切さが示されており、大変参考になった。

②講演について

回答	人数
参考になった	56
概ね参考になった	9
あまり参考にならない	0
参考にならない	0

- ・地域の人々のつながりを強くするための社会教育が大切だと、改めて感じた。
- ・身の丈に合った活動から始めていけばよいのだと、心強く思えた。「つながりの中で生きていく方法を学ぶ」ことが、社会教育であるというのが印象的だった。

## 3

## 成果と課題

【成果】

- ◎参集での研修会や実践発表、講師による講演が、参会者に好評であった。
- ◎質疑応答の時間を設けることで、内容が充実した。

【課題】

- ・オンライン開催についてのアンケートでは、回答者の3割から肯定的回答がなされた。オンライン配信等を検討していく。